

---

# ハナダジムジムリーダーサトシ!?前編

アンネン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハナダジムジムリーダーサトシ！？前編

### 【Nコード】

N9580M

### 【作者名】

アンネン

### 【あらすじ】

カスミが高熱で倒れてしまい代わりにサトシがジムリーダーを勤めます。

(1)

ここは、ハナダジム。水系ポケモンがほとんど専門のジムである。そのジム内では、いつものようにジム戦が行われていた。

???「ワニノコ、水鉄砲」

ワニノコの水鉄砲がチャレンジャーのポケモンにくらい戦闘不能にする。

さて読者の皆さんもう気づきの方もいるかもしれません。(気づかない方がおかしいよね)

そうここのジムリーダーのカスミは、ワニノコを持っていません。他にもキングラー、ブイゼル、ヘイガニ、ゼニガメそしてピカチュウも持っています。

そう、今ジムを任しているリーダーは、カスミでは、なくサトシである。

なぜカスミでは、泣くサトシがハナダジムジムリーダーを勤めているのか？

話は、数時間前にさかのぼる。

(2)

シンオウから帰ってきたサトシは、家にいたが暇でしょうがなくカスミの家に遊びに行くことにした。

サトシ「カスミ。いるか？カスミ」

玄関をたたくサトシ。

しかしカスミからの返事は、なく玄関を引くと開いたのだ。

サトシ「カスミいるんだろうカスミ？」

ピカチュウ「ピカピ」

サトシとピカチュウは、カスミの家に勝手に入りカスミを探すサトシ。

サトシがある部屋に入ったときカスミがぐったり倒れていた。

サトシ「カスミ!？」

ピカチュウ「ピカピ!？」

サトシとピカチュウがカスミに駆け寄る。

サトシ「あっちーい。すごい熱だ」

サトシは、急いでカスミを部屋に運びベットへ寝かせた。

サトシは、焦っていたとき

ヤストシ「どうしたんだ?」

サトシ「ヤストシ。ちょうどいいところに来てくれた」

ヤストシ「どうしたサトシ?」

サトシ「カスミが・・・カスミがものすごい熱があるんだ」

ヤストシ「よしわかった。すぐ医者を呼んでくる」

ヤストシは、急いで医者を呼ぶこととした。

(3)

医者は、カスミを治療する。

医者「1、2週間おとなしくしてれば治りますよ」

サトシ「ありがとうございます」

医者は、部屋を出て行った。

ヤストシ「よかったな。サトシ」

サトシ「うん」

サトシは、安心そうにカスミのほうを見る。

ヤストシ「でも、ジムは、どうするか?」

サトシ「それどういう意味?」

サトシの質問にヤストシは、素直に答えた。

ヤストシ「カスミが倒れた今ジム戦できる人は、いないんだ。肝心なカスミの姉さんたちは、どっかに遊びにいちやてるし。このままじゃジムに挑戦したい人が困るぞ」

ヤストシがそう発言するとサトシは、一瞬考え込んで

サトシ「...れが...俺がカスミの代わりにジムリーダーになる」

ヤストシ「できるのかサトシ?」

サトシ「やてやるさ」

サトシがジムリーダーの代理をすると宣言したときヤストシがからかうように言う。

ヤストシ「本当は、カスミのことが好きだから自分がジムリーダー代わりにやるんじゃないの」

サトシ「何言ってるんだ。俺は、挑戦者のためと思ってやるの」

サトシは、顔を赤くしながら言う。

ヤストシは、これ以上追求しなかった。

(4)

その後サトシは、オーキド研究所からキングラー、ヘイガニ、ゼニガメ、ワニノコと手持ちを入れ替えて自分の手持ちに持っているブイゼルとピカチュウとともにジムリーダー代行を務める。

一方のヤストシは、審判と料理を担当する。

カスミの看病は、サトシが自分でやるということ。でヤストシは、ジムの審判や家事に専念できる。

そしてジムの外に看板を立てた。

「ハナダジムのジムリーダーカスミが急病のため代わりにカスミの友人サトシが勤めます」と書いて立てた。

本当は、友人ではなく恋人と書きたかったがサトシにあえなく却下された。

その後ジムにサトシに挑もうと何人かの挑戦者がやってくるも退けた。

もちろんその中には勝敗関係なくジムバッチをあげる。

ヤストシ「サトシもやるな」

サトシ「いや、それよりカスミの状態は？」

ヤストシ「今は、ぐっすり寝てるよ」

サトシ「そうか、よしもうひと働きするか」

サトシは、そういつてジムに戻り挑戦者の相手をする。

(5)

サトシは、ジムを閉めたあとカスミの看病をしてた。

カスミ「……し……サトシ？」

サトシ「目覚ましたかカスミ？」

ヤストシ「気がついてよかったぜ」

カスミ「ヤストシ。どうしてここ・・・ゲホゲホ」

ヤストシ「ほらほらゆっくりしなさい。また風邪こじらせるぞ」

カスミ「そうだ！？ジムは？」

ヤストシ「心配するな。ジムは、サトシがお前の代わりしてるから安心しな」

カスミ「本当なのサトシ？」

サトシ「ああ。でもジムリーダーで大変だなってわかったよ」

カスミ「サトシ・・・」

サトシ「心配するなお前の病気が治るまでジムは、俺が守ってやるからお前は、病気を治すことに専念しな」

ヤストシ「サトシ、病気が移るから早くしろよ」

サトシ「はいよーお休みカスミ」

カスミ「お休み」

サトシは、カスミの部屋から出て行く。

カスミ「（サトシって本当に成長したわ）」

そういつて眠りについた。

このとき両者は、お互い好きだということに気づく者は、いなかった。

後編に続く

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9580m/>

---

ハナダジムジムリーダーサトシ!?前編

2010年10月22日00時55分発行